

全国建設青年会議

第26回

全国大会

#進化と共創

～「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる建設産業に～

日時 令和3年12月3日(金)14時～

場所 明治記念館 東京都港区元赤坂2丁目2-23
03-3403-1171



全国建設青年会議
ZENKOKU KENSETSU SEINEN KAIGI

Official Website

<https://www.zenken-taikai.com/>



プログラム

主催者挨拶

大会会長 **萩原 一宏**

来賓挨拶

国土交通大臣 **斉藤 鉄夫氏**

特別講演

国土交通省 技監 **吉岡 幹夫氏**

基調講演

一般社団法人建設ディレクター協会 理事長 **新井 恭子氏**

一般社団法人全日本建設技術協会 会長 **大石 久和氏**

パネルディスカッション

コーディネーター

荒木コンサルティングオフィス 代表 **荒木 正芳氏**

パネリスト

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長 **大石 久和氏**

一般社団法人建設ディレクター協会 理事長 **新井 恭子氏**

全国建設青年会議第26回全国大会 大会会長 **萩原 一宏**

大会宣言

大会実行委員長 **藤原 将智**

YouTubeによるライブ配信



上記QRコードよりライブ配信特設ページへリンクいたします。また、全国建設青年会議のホームページ(<https://www.zenen-taikai.com>)からも視聴いただけます。

(2021年12月3日13時45分より視聴可能)

主管

北海道建青会

全国9ブロック

北海道建青会 / 東北建設業青年会 / 関東建設青年会議
中部建設青年会議 / 北陸建設青年会議 / 近畿建設青年会議
中国地方建設青年交流会 / 四国建設青年会議 / 九州建設青年会議

特別講演

講演テーマ 『「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる

建設産業に向けた国土交通省の取組』



講師 国土交通省 技監

よしか みきお
吉岡 幹夫氏

今年も、熱海市伊豆山で発生した土石流災害をはじめ、全国各地で発生した災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。気候変動に伴い、水害や豪雨災害が激甚化する一方、数時間で交通に支障を来すような突発的な豪雪災害も発生しています。今年10月には東京都23区で震度5強を記録する地震も発生しましたが、今後発生が想定される巨大地震を含め、国民の生命や財産、生活を守る社会インフラと、それに携わる建設業の役割はますます大きくなっています。建設産業が今後もその役割を果たしていくためには、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」や「働き方改革」に取り組み、変わっていくことが重要です。昨今のコロナ禍により、建設産業は厳しい状況にございますが、対面での働き方を見極めるチャンスととらえ、これを糧にDXを進めてまいります。現場の最前線でご活躍する皆様のご意見をお聞かせいただきながら、若者にとって魅力ある建設産業とすべく一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

基調講演

講演テーマ 『建設産業のあり方がやりがいを創る
一働き続けたくなる会社に必要なもの一』



講師 一般社団法人建設ディレクター協会 理事長

あらい きょうこ
新井 恭子氏

建設業では、人材不足の人的課題、生産性向上のための技術的課題、広報イメージアップの必要性など多くの課題があり、これらを取りまく環境の変化に、いかに素早く対応できる組織であるかがDX時代の要だと考えた時、今こそ従来の働き方や価値観を変えていく時期なのではないかと感じています。私たちは20年以上にわたり建設業をITと教育でサポートしてきました。現場事務所を訪ね歩く中、技術者が時間外労働せざるを得ない原因の一つに、書類の煩雑さと、オフィスとのコミュニケーション不足からくる職域分断がありました。現場とオフィスが互いに業務を明確に共有することで適切に分業でき、技術者は重要な業務に集中できる環境が整います。そこで私たちは「個」から「チーム」で働く組織づくりとして、人材マネジメントの観点から切り込んだ「建設ディレクター」という人材を配置し、環境を整える業務プロセス改善を提案しています。今いる担い手を活かし、新しい雇用に繋げていく。担い手も女性、ベテランや障害者など多様な人材の活躍フィールドが存在できる産業、それが建設業の魅力です。長期的に建設業に一人でも多くの人材の流入と定着が進むことを強く願っています。

講演テーマ 『世界の潮流と日本の救世主』



講師 一般社団法人全日本建設技術協会 会長

おおいし ひさかず
大石 久和氏

コロナ禍による経済ショックを受けて、先進各国は経済の再生のための政策を繰り出している。アメリカでは高速道路や港湾などの交通インフラの大改修に着手することになり、それは1950年代の州間高速道路建設以来の投資規模になると言われている。EUから離脱したイギリスも国土の一体化と地方の活性化のためのインフラ投資を大規模に行い、EU依存から立ち立っている環境を整えようとしている。ところが、財政再建至上主義に貫かれたわが国ではこうした議論はまったくなされないままとなっており、社会の基礎構造であるインフラの整備水準が先進各国との格差を広げている。それが国民の貧困化を進め、経済の成長を阻止して税収が伸びない国としているのだから、この救世主は積極的な財政拡大によるインフラ投資しかないのである。全国建設青年会議は、このことを十分に理解して広く発信し、次世代のために貢献する使命を負っているとの自覚を持ちたいのである。

パネルディスカッション

テーマ 『今改めて考える、建設業の魅力とは』



コーディネーター

荒木コンサルティングオフィス 代表
あらか まさよし
荒木 正芳氏

少子高齢化と人口減少時代の進展に伴い、建設産業は深刻な人手不足に直面しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で地域経済が大きなダメージを受け、地域建設業は引き続き、「地域防災の担い手」、「社会インフラの守り手」、「地域経済活性化と雇用の支え手」として重要な役割を担っており、若者の確保・定着対策は喫緊の課題となっています。今回のパネルディスカッションは、本大会のテーマである「進化と共創～やりがい、楽しさ、喜びを実感できる建設産業に～」を踏まえ、「今、あらためて考える建設業の魅力とは」と題して、建設業の魅力ややりがいなどについて意見を交わして、これからの建設業のあるべき姿を議論していきたいと思っております。パネリストの皆様から貴重なご意見をいただき、今大会及びパネルディスカッションが契機となり、建設産業が地域社会の期待に応え、重要な基幹産業としてさらに発展していくため、建設業の魅力をしっかり若者たちに情報発信していくことの大切さをお伝えできればと思っております。